

岡部定一郎「福岡城寸描」(18)

1. 福岡城の構え

櫓の巻6 月見櫓

福岡城築城後の400年間、一度の戦いもなく、平和な江戸時代270年、明治以降は別の価値を持つ福岡城となるが、いづれにしても、本格的な戦いを行ったことがない城である。

その歴史の流れの中であって、武人達が四季の歳時の移り変わりを愛でながら行事化し、慶びとして有職故実、儀礼化することによって櫓の役割が別の意味を持つこととなる。

その一つが月見櫓である。明治になって黒田家の菩提寺である崇福禅寺移築され、経文倉として残されていたが、その昔は、天守閣下の本丸台地左隅にあって、秋の夕月を楽しむばかりでなく、お茶を楽しみ、歌を楽しみ、高い身分の子弟の15歳になっての加冠の儀等、豊穰豊作の秋の訪れを希い祈る櫓でもあった。



月見櫓

